

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－	－
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年の落ち込み分を取り戻すほどの勢いはないが、客単価及び来客数共に前年を上回る状況が続いている。緊急事態宣言のなか、お弁当や酒類の伸びが目立つ。しかし、外出自粛の影響か、週末の来客数減少が足を引っ張っている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月は長雨の影響で売上が落ち込んでいる。しかし、前年の5～8月は、特別定額給付金の給付が数字を押し上げており、今期はその分が悪くなっているものの、月を追うごとに若干ずつ上がっている状況である。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・当県で感染者数が急激に増え、8月に入ると新規感染者数が3けたに増加し、人口比率からみてもインパクトが大きい。また、報道も過熱し、消費者動向が明確に悪化している。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・主要な客層である高齢者のワクチン接種が進んだため、前年度と比較しても感染を恐れたサービスキャンセルが大幅に減少している。
	□	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・5月及び8月も緊急事態宣言による飲食店への時短営業や営業自粛要請の影響で、販売量が大幅に落ちたままである。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・再度の緊急事態宣言で、外販での注文もほとんどなくなっている。店頭販売でも、専門店に立ち寄る手間を省くために、スーパーマーケットでの買物ついでに、まとめて購入している状況である。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・全体的な動向は前月と同様であり、食品中心の消費動向に変化はない。また、衣料品や住居関連は、依然として前年の反動と現状からの回復見込みが不透明であることにも変化はない。
	□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・8月上旬までは前年比及び前々年比について厳しい水準で推移したが、記録的豪雨に見舞われたお盆商戦が好調な結果となり、その後も前年比について比較的好調な水準で推移している。これは20日に発出された緊急事態宣言の影響と考えており、まん延防止等重点措置では、そこまで集客需要が喚起されなくなっている。また、来客数減少、客単価上昇という傾向は、今年に入ってずっと続いている。
	□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・お盆期間の長雨で販売量が落ちている上、それ以降も例年ほど気温が上がらず、夏物商材の動きが悪い。また、青果物は前半物量が潤沢で安値だったところ、気温低下と長雨で驚異的な高値となっている。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・販売額について、前月比は多少上がっているが、前年との比較では大幅に下がっている。
	□	乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、余り景気の良い話は聞かない。
	□	住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・月初は下見の客が多かったが、後半成約決定が増え、店舗での売上が伸びている。一方で、都市部でのキャンペーンや新規事業は低調である。
	□	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・前月と比較すると当県も新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、店頭へ来店する固定客は若干減少しており、また、新規の客は見受けられない。しかし、既存の客の購入があるため、売上は前年と同程度の水準はある。
	□	スナック（経営者）	それ以外	・8月は新型コロナウイルスによる営業自粛で売上はゼロである。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・2回目のワクチン接種が完了した客が多くなっているが、まだまだ安心して動ける状態ではない。
	□	タクシー運転手	それ以外	・緊急事態宣言発出で、タクシー業界にとって、かなりの打撃である。

□	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用下であるが、スーパーマーケットやデパートでの来客数の動きは変わっていない。
□	通信会社（統括者）	販売量の動き	・8月の携帯電話の販売台数は、前年並みの台数を見込んでいる。しかし、店舗開催での教室等の出席者は、新型コロナウイルスの影響によりやや低調である。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・親会社のファシリティサービスを担っており、サービス先の景気が上向きにならなければ好転の兆しはみられない。経費削減のあおりを受け、一部サービス停止の検討もあり、新型コロナウイルスの終息がなければ、景気上昇は見込めない。
□	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大で、まん延防止等重点措置が適用されており、休業要請で人流が抑制されているが、全体的な景気としては、さほど変化はない。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・高齢者の多い地方の商店街では、2回目のワクチン接種が完了し消費も回復するかと期待していたが、再度の緊急事態宣言で来店客は少なく、お盆期間中の大雨も大きなマイナス要因になっている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が強く出ている。景気が若干良くなりかけていた3か月前と比較すると、緊急事態宣言発出で人の動きがなく、悪い状況になっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月末からまん延防止等重点措置が適用され、飲食店は午後から夜は休業、また完全休業の店も目立ってきている。人の通りもなくなり、一般小売店や物販関係は非常に厳しい状況にある。
▲	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・夏休みや帰省の時期であるが、客は少なく、店内を見て回らずに目的のものを短時間で購入し、帰宅する印象が強い。
▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言発出による外出自粛や混雑回避、また、県外との往来自粛で土日を含め、各時間帯共に来客数が減少している。職域接種が進んでいるが、マスク着用での目的買いが多く、店頭での来客数、滞留時間共に減少している。加えて、ギフトを含めオンラインでの受注も減少している。一方、地方サテライトショップやギフトショップへの来店が増え地元での購買志向が強まっている。周辺商店街では、旅行者等人通りも増えているが、感染拡大への不安は高まっている。
▲	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店の売上前年比は、5月128.5%、8月92.0%となっており、前々年比では、5月70.3%、8月68.8%でやや悪くなっている。全店共に衣料品関係が落ち込んでおり、食料品がけん引している状況である。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・県内でも、新型コロナウイルスの新規感染者数が、過去最多更新を繰り返している厳しい状況で、9月12日までまん延防止等重点措置が適用される。来客数は大幅に減少し、売場からも来店を促す連絡もできない。多くの客は、新型コロナウイルス感染が落ち着いてから来店することになると予想される。
▲	スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客のにぎわいが少ない。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言発出及びまん延防止等重点措置により、必然的に人流が減少している。生活防衛意識も高まり、消費支出も減少傾向になっている。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・コロナ禍第5波に加え、前例にない8月の長雨が来客数のマイナスに大きく響いている。
▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・集中豪雨と新型コロナウイルスにより、人の動きは大幅に減少している。来客数は、前年比92%、前々年比81%と2年連続で減少している。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因も大きいですが、8月に入り来客数が減少傾向である。東京オリンピック需要での来客数増加を期待したが、大きな影響はない。
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が、固定傾向になっている。

▲	コンビニ（エリア担当・店長）	それ以外	・7月の終わりから8月にかけての長雨の影響で、来客数及び買上点数、売上等が伸び悩んでいる。
▲	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大や外出自粛要請により、極端に来街数及び来店客数が減少している。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・エアコンディショナー等季節商材コーナーへの来客が少なく、動きが非常に悪い。
▲	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売台数が減少している。メーカーが半導体不足とコロナ禍により、大幅な新車減産を行っている影響が大きい。
▲	その他専門店〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言に加え、悪天候が続き、売上が厳しい。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・東京オリンピック需要もなく、また、新型コロナウイルスは感染拡大しており、景気が回復しそうな兆しがみえない。
▲	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・既に予約があった旅行が、この1か月で大幅に取消しされた結果、販売額が3か月前よりも下回っている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・7月にかなりの勢いで景気回復傾向にあったが、今月は急激な感染者数増加による緊急事態宣言で人出も減り、夜の繁華街もかなりの店舗が深夜まで営業しているにもかかわらず、閑散としている。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の新規販売件数が、減少している。
▲	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用され、人の動きが少なくなったことで、来客数が減っている。
▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ワクチン接種が進んでいる比較的高齢の来場者は、順調に推移しているが、まん延防止等重点措置が適用されてから、企業コンペ等のキャンセルが出始めている。
▲	競馬場（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言や豪雨の影響により、来客数が減っている。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言発出、まん延防止等重点措置が適用され、全く客の動きがない。2～3か月前より一層落ち込んでおり、美容業界は最悪な状態が継続している。
▲	美容室（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用され、客は慎重になり、外出自粛をしているため、来客数が減少している。
▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、新規の客が動いていない。
▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的に増加し、来場者数の減少傾向が続いている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月17日以降、新型コロナウイルスの感染が急拡大している。百貨店でクラスターが発生したため、来街者数、来客数が大幅に減少し、市の中心部へ買物に出掛ける人はなく、販売量が減っている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地区では、ワクチン接種が2回終わり、幾らか安心してはいるが、感染拡大によるまん延防止等重点措置で不要不急の外出自粛が続いており、商店街の客はまばらで危惧している。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加と天候不順で来街者及び来客数の減少が続いている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・第5波の発生や今月中旬の大雨、また、まん延防止等重点措置の適用等悪条件が重なり、来客数は当然減少している。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍による緊急事態宣言で、来客数が激減している。
×	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・青果物の相場は、今日までの長雨により、全国的に野菜の品質が落ち、また、生産量が下がっているため高騰している。ただでさえ、夏の売れない食欲がない時期に、追い打ちを掛けられた状態で、かなり厳しい状況にある。

×	一般小売店〔鮮魚〕(店員)	お客様の様子	・緊急事態宣言発出から、極端に悪くなっている。24時間営業の居酒屋も出ており、全般的に追い詰められている状況である。魚の入荷が少なく、そのことでもきつい状態であるが、加えて、売上が悪い状況であるにもかかわらず、魚を高額で購入しなければいけないため、残れば損になる深刻な状況である。
×	一般小売店〔食料雑貨〕(店員)	販売量の動き	・コロナ禍で飲食店の休業が相次ぎ、売上が減少している。大雨被害の影響も続いている。
×	一般小売店〔生花〕(経営者)	お客様の様子	・8月はお盆の需要のために準備した花があったが、ひどい雨が続き、墓参りもほぼできず、完全に当てが外れてしまった。客の景気も良くないため、今後の売上が心配である。
×	百貨店(企画担当)	来客数の動き	・県下全域における急激な新型コロナウイルスの感染拡大で、来客数が大幅に減少している。
×	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、テレワーク化の定着による分散出社もあり、来客数が前年比6%程度の落ち込みである。
×	コンビニ(店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が拡大している。企業の時間差出勤により、来客数が減少している。
×	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で、外出自粛が多くなり、おしゃれマインドも低下し、来客数が大幅に減少している。
×	衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・緊急事態宣言で再び来客数が激減し、売上は前年比約50%となっている。
×	衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・5月は暖かく陽気になり、長い自粛の中だるみも現れ、人出もほどほどあったため、来店客は例年より少ないながらもぼちぼちあった。しかし、今月は前例がないほど来店客がない月で、大変な売上の損失になっている。
×	家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・長雨による気温の低下や新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数が前年比80%を割り込み、エアコンディショナーや冷蔵庫等の夏物商材が大苦戦している。新型コロナウイルス特需の反動も加わり、ダブルパンチの状態である。
×	住関連専門店(従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスによる医療現場のひっ迫が深刻化してきたことを受け、多くが不要不急の外出を控えていることが商店街の様子から分かる。また、足早に歩いており、寄り道で来店することも減少し、今月の広告費用対効果も極めて低くなっている。
×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(統括者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、来場が大幅に落ち込んでいる。
×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・東京オリンピックが開催されると急激に忙しくなったが、感染拡大により発出されたまん延防止等重点措置で人通りがなくなり、来店客もなく最悪の状態になっている。
×	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・当県では、新型コロナウイルス新規感染者数が増加しており、予約取消しが増えていたところに8月20日から時短営業要請が出て、8月はほとんど営業にならない深刻な状態になっている。
×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕(経理)	販売量の動き	・感染拡大による、まん延防止等重点措置で、飲食店への休業要請、酒類提供の禁止の対応があり、酒類販売量は減少し悪くなっている。
×	観光型ホテル(専務)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が増え、県独自の宿泊割引が停止されている。まん延防止等重点措置は県内の人口が多い市にしか出ていないが、当地にも大きい打撃である。長雨が続いたこともあり、この夏も最悪な状況の上に、新型コロナウイルス収束の心配が感じられず、今後もこの状態が続くのではと懸念している。

	×	観光型ホテル (総務)	販売量の動き	・運営するホテルの宿泊予約が激減している。3か月前は新型コロナウイルスの感染拡大第4波の影響を受けたが、今回の第5波の方が警戒感が強い。宴会場の予約状況でも、既に忘年会、新年会シーズンの予約取消しや延期が入っており、ワクチン接種の進捗効果もみられない状況である。
	×	都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置に続いて緊急事態宣言の発出があり、回復傾向がみられない。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕 (営業)	来客数の動き	・地方独自のまん延防止等重点措置の要請があり、大きく影響を受けている。
	×	設計事務所(所長)	単価の動き	・建築材料・製品単価が上昇している。また、生活必需品の単価も上昇している。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	農林水産業(従業者)	受注価格や販売価格の動き	・曇天続きのため、市況は上がっている。
	○	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・半導体の動きが徐々に良くなっていることを聞いているが、その状況からこの業種においても、徐々に上向きになっている。
	○	電気機械器具製造業(取締役)	取引先の様子	・車関係の引き合いが依然強い。しかし、半導体不足の影響で、部品購入の納期が読めなくなっており、現在の大きな問題である。
	○	電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・半導体関連事業が、引き続き好調である。
	○	新聞社〔広告〕(担当者)	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック関連で、広告の動きがある。
	□	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・8月の販売の動きは、月初めはおおむね需要もあり、量販店を中心に順調であったが、お盆明けは、都心での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対策の影響で、一気に落ち込んでいる。当地でもまん延防止等重点措置で、外食向けも厳しくなり、今まで何とか計画をクリアしていたが、今月は計画を下回りそうである。
	□	食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・季節商材で端境期のため、売上、製造共に減少する時期である。
	□	金属製品製造業(事業統括)	受注量や販売量の動き	・引き合いは増加しているが、受注に結び付かない。半導体不足の影響で市場が止まった状態となっており、建築設備の現場まで影響を受けている。
	□	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前月との受注状況には大きな変わりはない。
	□	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・引き続き受注が好調である。
	□	建設業(社員)	受注量や販売量の動き	・今月は、お盆休みを挟み、発注が少なくなっている。現在、技術者は手持ち工事が完了し待機している状態で、早期の発注ができるよう来月に期待をしたい。
	□	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・特に大きな変化はない。コロナ禍で生活様式が変わり健康食品の通信販売は高止まりのまま推移している。一方、化粧品は国内外共に低調のままである。
	□	通信業(経理担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスは新規感染者数の増減を繰り返しており、根本的な解決に至っていない。
	□	金融業(調査担当)	取引先の様子	・夏休みシーズンで県域をまたいだ人の出入りが増え、新型コロナウイルスの感染拡大が加速した。飲食店に対する営業自粛要請は緩和されず、今後の資金繰りを懸念する声が強まっている。家電ではテレビやエアコンディショナーの売行きが好調である。
□	金融業(営業)	取引先の様子	・3か月前からの飲食業界や小売店、また、観光業等に対する長引く新型コロナウイルスのマイナスの影響は極めて大きく、状況は変わっていない。	

	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業では、自動車や半導体関連を中心に回復基調にある。また、巣籠り需要を受けて物流倉庫や食品スーパーマーケット等は堅調であるが、一方で、飲食店やホテル等のサービス業では、新型コロナウイルスの感染再拡大と緊急事態宣言の発出もあり、依然として客足が戻らず厳しい状況が続いている。以上から景気は、業種によりばらつきがあるが、総合的には3か月前と同様に悪い状況である。
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・前月、前々月、前々年比で30%を超える減収となっており、景気回復への足取りが重い。
	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・客からの業務オーダーの数や予算規模、競合プレゼンテーションの数等で、特に変化がない。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・緊急事態宣言発出により、今月の例会は中止となり、周囲の状況は確認できないが、前月と変わらないと予想される。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の業況では、大きな変化はない。
	その他サービス業【物品リース】（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言が発出されたが、各企業も大きな動きはなく営業活動を行い、設備投資に関しても問題なく計画されている。
▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、飲食店向けの売上が低調である。
▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上では、7月まで前年より良かったが、8月は、前年より悪くなっている。また、商社関係も上向きにはならず、受注関係も低調が継続し、今後経営は難しく、厳しい状態が続くと懸念される。
▲	その他製造業【産業廃棄物処理業】	受注量や販売量の動き	・今まで新型コロナウイルスの感染が拡大しても順調だった生産が、突然ダウンとなり、また、相場も変動が激しくなり、前月までの流れがうそのように止まっている。
▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発出され、また、まん延防止等重点措置による外出自粛により飲食店向けの商材が落ち込んでいる。加えて、お盆前後の大雨で農作物が不作になり、段ボール原紙の出荷減少等様々なマイナス要因がある。
▲	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が物量に影響を及ぼしている。加えて、一時的ではあるが、豪雨も影響した。極端に悪くはないが、東京オリンピック前の状況と比較すると陰りが生じている。
▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店の売上は伸び悩んでいるが、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の売上は持ち直しの動きがみられ、住宅や家電の販売も持ち直してきている。一方、新型コロナウイルスの感染者数が大幅に増加しているため、労働需給や雇用者所得の動きは弱い。
▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言が発出され、飲食業のみならず、小売業全体も時短営業を強いられ、売上が低迷している。また、かなりの長期化により、経営者のマインドも下がっていることが取引先から見受けられる。
▲	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・4度目の緊急事態宣言で、飲食関係の落ち込みが激しい。関連取引先も同様に影響を受けている。
▲	その他サービス業【コンサルタント】（代表取締役）	取引先の様子	・当初予算計上されていた市町村の調査や計画策定の委託業務の発注が滞っているため、受注が少ない状況にある。新型コロナウイルス対策のため、担当課がワクチン接種に追われていたが、8月に入り、感染対策費用の予算が必要になり、執行が停止しているものもある。
×	繊維工業（営業担当）	それ以外	・取引先にも新型コロナウイルス感染者が発生し、在宅勤務や時差出勤が多くなり、スムーズに仕事ができいていないため、受注も少なくなっている。
×	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・8月は、今年最悪である。新型コロナウイルスの感染拡大の上に、猛暑となり、また水害もあり、天候により非常に厳しい状況となった月である。
雇用	◎	—	—

関連 (九州)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・注文数が約3割増しになっている。新規追加注文や後任の注文も以前と同じ割合で増えている。求職者についても登録者や応募者が増えている。
	○	求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・夏の繁忙期直前に緊急事態宣言が解除されたため、一気に求人需要が高まった。しかし、すぐに緊急事態宣言が発出され、冷水を掛けられ熱が冷めた状態になっている。9月12日まで宣言が継続することは死活問題である。
	○	新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・コロナ禍で緊急事態宣言が発出されており、影響を受ける業種と受けない業種で差がある点は気になるが、緊急事態宣言が解除されると一気に経済活動が再開される。
	○	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・有効求人数は4か月連続で、前年比10%以上の増加となっている。新規求人数も2か月連続で10%以上増加している。さらに、有効求人倍率が、4か月連続で前年比を上回る状況になっている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・直近で発生している新しい案件数はほとんどなく、未処理の案件が求人数として残っているだけの状況が続いている。また、新規の問合せでは専門職種が多く、新しい雇用を生み出しているわけではない。
	□	新聞社[求人広 告](社員)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言にも慣れてしまっており、3か月前との比較は低いレベルで変わらない。また、新聞広告の量も低位安定という状況である。例年、お盆に求人広告特集を行っているが、前々年から前年にかけて大きく減少している。ただ、減少幅は大きくなく、さすがに下げ止まりではないかと考えられる。
	□	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・2022年卒業の求人は底堅さが感じられ、企業の採用活動も活発に動いている。内定報告者の数も前月よりも増えており、また、2023年卒業採用に向けたインターンシップの実施を計画している企業も多い。
	▲	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・緊急事態宣言発出によるキャンセルや延期が出ている。
	▲	新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・県内ではまん延防止等重点措置、隣県では緊急事態宣言が発出され、移動の制限や飲食店の酒類提供の自粛や休業要請等があり、人流の抑制に合わせて経済活動も鈍化しているため、以前と比べると景気は悪くなっている。
	▲	民間職業紹介機 関(職員)	採用者数の動き	・全体的な採用選考は前倒しになっていたため、就職活動が解禁されてから初めは、内定を持っている学生が例年より多かったが、新型コロナウイルスの第4波・第5波の発生で、企業の動きがやや鈍り、前年よりで厳しい状況である。ただし、一部に積極採用をしている企業があり、うまくマッチングできれば少し改善できると考える。
×	職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス変異株の拡大による再度の時短営業要請により、小売業や飲食業、宿泊業では、店を開けていても、利用者や収益がないため、時短営業でなく、丸1日休業が前回よりも多くなっている。	